

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	(株) グリーンファーム揖西 ^{いっさい}
氏名（肩書き）	^{いざわとしかず} 猪澤敏一（代表取締役）
所在地	兵庫県たつの市揖西町北山 480-1
経営の概要	平成元年 圃場整備事業を契機に 20 集落で営農組合を立ち上げ 平成 16 年 北山、竹万、構、新宮、龍子、田井集落が農業経営基盤強化促進法に基づく特定農業団体として認定 平成 18 年 6 集落が機械の共同利用のための古子川営農組合集団を設立 普及センター、JA 兵庫西が仲介となり地場産業であるヒガシマル醤油(株)向けの高たんぱく小麦・大豆の作付け開始 平成 24 年 5 つの営農組合で(株)グリーンファーム揖西を立ち上げ 経営理念：「自分たちの農地は自分たちで守る」 地域の農環境を守るため遊休地を出さない 経営面積： 85ha（水稻（飯米）32ha、小麦 45ha、大豆 35ha） 構 成： 5 集落 231 農家
取組の特徴	・ JA 兵庫西を介した地元実需者との契約栽培で、醸造用の高たんぱく小麦・大豆を生産し、徹底的な排水対策で高レベルの排水性を実現、高収量を確保、安定した経営を目指す。 ・ たつの市集落営農連絡協議会で、小麦・大豆の収量増のために栽培技術の向上と普及に取り組んでいる。 ・ 2 年 3 作（米・麦・大豆）ブロックローテーションで土地の有効利用を図る。 ・ 実需者が望む新品種の実証栽培試験に取り組んでいる。 ・ 醤油製造の副産物を発酵し、堆肥化（肥料登録）した「ASK（発酵諸味粕堆肥）」を利用して肥料コストの低減及び、資源循環型農業に取り組んでいる。
今後の展開	・ 水稻・大豆・小麦全般に ASK を波及させ、コスト低減・作業効率の向上により高収益化を目指すとともに、環境面に配慮した SDGs を通して持続可能な農業に取り組む。 ・ GF 揖西の管理圃場の周辺集落の圃場も囲い込み大きい共同体にすることで、地域の担い手や農地を守る取り組みに貢献する。 もっと大型の農機具が必要かどうかどうしよう
意見・要望	1. 農業予算の拡充 ・ 日本の食と農業に対する国家予算は適正といえるのか、食料安全保障は国家的戦略の位置付けとなる。世界の農業生産や食料供給事情などとともに、諸外国における食料安全保障政策の内容や予算措置について、検証部会ではどのように議論されているか？ ・ 国内農産物の生産強化を図るため、国家予算全体の枠組みとして、生産コストや労力に見合った、公正で再生産可能な農業所得の補償が必要ではないか。

	2. 農村・集落環境を守るための施策 ・後継者不足、高齢化による離脱で耕作放棄地等が増え続け、農村・集落環境は危機的状況である。他産業でも担い手不足は深刻であり、構造的な問題として議論していく必要があるのではないか。 ・米や野菜も生産コストを価格転嫁できないなど、農業の現状は厳しいものがある。次世代の農業の担い手が育つ環境を作り、持続可能な農村・集落を守ることが我々の使命。持続可能な農村社会を構築するために、国家全体として議論を展開すべきではないか。 ・農業の担い手とともに関係機関のマンパワー不足が深刻である。例えば、JAや公務員も農業従事者として認めることはできないか。 3. 地域計画について ・話し合って解決しますか？ ・大型農家や営農組合など、農地を守るための予算について、国民視点での合意形成を図り、国土を守るための集中した仕組みづくりを構築できないか。 ※ 国民全員が農村（田舎）に目を向けなければ、農業が死んでしまう！
--	---



「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	きょうとたんばあかほりのうじょう 京都丹波赤堀農場
氏名（肩書き）	あかほり みゆき 赤堀 幸
所在地	京都府綾部市西坂町
経営の概要	夫婦2人 パート12人 耕作面積 3ha 京のブランド産品である“紫ずきん”“万願寺甘とう”等、京野菜を中心とした農業経営。 赤堀農場（akahorinoujou.net）
取組の特徴	12年前、京都市内から綾部市に家族4人で移住後就農。 地域の特産品である“紫ずきん”や“万願寺甘とう”の栽培を、ICT化・機械化し規模拡大をしてきた。生産者部会にも積極的に参加。 地域の農地受け入れ、雇用の創出、地域の活性化を図る。 赤堀幸の取り組みとして 綾部・舞鶴・福知山の3市で活躍する一次産業にまつわる女性を集めたグループ『のらXたんゆらジェンヌ』を結成・運営。 女性から農村を元気にしたいと考える。
今後の展開	集落の維持・活性化に向けて ・中山間地域でも、特産品を活かした農業経営が成り立つ事が必要。 また、産地を次世代へ繋ぐ取り組み。 ・サードプレイスとしての田舎の役割 ・半農半X・関係人口を増加させる取り組み
意見・要望	圧倒的に地域の担い手が足りない。高齢化・人口減 ・都市から農村への移住の支援 住居問題・農地の取得問題・地域とのマッチング等 ・集落のインフラ確保 農道・生活道路の整備、ため池・用水路の整備等 集落のグループで行っていた事が、高齢化などで出来なくなっている。国からの補助も減っている。 ・就農希望者・農業者支援 受け入れ地域への支援 中山間地域でも、継続して生活の出来る魅力ある農業へ向けて、生産物の適切な価格を実現してほしい。 1人でも女性でも就農支援を。獣害対策急務 ・中山間地域の実態に沿った支援。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	株式会社 おうみそのだ 近江園田ふぁーむ
氏名（肩書き）	そのだ よしひろ 園田 祥大（取締役）
所在地	滋賀県近江八幡市野村町2504-1
経営の概要	2013年 法人化（旧：園田園→新：株式会社 近江園田ふぁーむ） 2015年 フードリサイクルエコ農法を導入 <栽培面積等> 水稲：98ha、麦：75ha、大豆：75ha、野菜：0.6ha 農産物加工：ポン菓子・大豆ポン菓子・米粉・味噌
取組の特徴	滋賀県の企業及び京都のホテル等と提携し、フードリサイクルエコ農法と称して、ホテル・企業の社員食堂等から廃棄される食べ残しや調理後の食品残渣を堆肥化して、弊社に持ち帰り再度、米ぬか・くず米・くず大豆を混合し土壌改良資材・微量肥料として使用。 その肥料で生産された農産物をホテルや企業で取り扱ってもらい、循環型農業に取り組む。 

今後の展開	農地の集積、集約化、機械の大型化、ロボット農機具の導入等により作業効率を向上させ、新品種の導入等によりフードリサイクルエコ農法での農産物の品質向上・収量の安定化をはかり、提携する企業の拡大や地域の認定農業者等の取込みを行うなど、フードリサイクルエコ農法の普及を目指す。 はだか麦（もち麦）の作付面積を拡大し、地域での産地化を目指す。
意見・要望	近年の肥料高騰の影響で農業経営は圧迫しているため、経営安定対策や、収入保険等のセーフティネット対策の充実を要望する。 人材の確保が困難な状況にあるため、雇用労働力を確保する施策の充実を要望する。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名 (代表者)	紀の里農業協同組合 代表理事組合長 岩上 昌義
氏名 (肩書き)	中山 裕之 (経済担当常務理事)
所在地	和歌山県紀の川市
経営の概要	JA 紀の里は和歌山県北部に位置し、平成 20 年 4 月 1 日より紀の川市と岩出市を管内としており、紀の川市は総面積 228 km²で県下総面積の 4.8%を占め、総人口は約 59,803 人、総世帯は約 26,910 世帯となります。一方、岩出市は面積 38.5 km²・総人口約 54,116 人、総世帯数は約 24,371 世帯となっております。(令和 5 年 3 月末) 管内は温暖な気候と紀ノ川を主流とした豊かな水と有機質に富んだ土壌等により、年間を通じて多種多様でおいしい農産物が育まれ、四季折々の旬に富んだ果樹、野菜、花卉を全国各地にお届けしています。 地質は、紀ノ川北岸が和泉砂岩からなり、南岸は古生層の三波川変成帯となっています。紀ノ川清流に沿った農業地帯の年平均気温 15.6℃、年間降水量 1300～1400 ミリと温暖な気候条件であります。 管内で生産される農作物は、桃・柿・みかん・いちじくなど果樹が中心となっていますが、温暖な気象条件を生かした施設野菜・花卉も年間を通じ生産されています。 北部には大阪府が隣接、関西の台所といわれる一大消費地があり、関西国際空港に最も近い果物の一大産地となっています。 組合員数は 19,886 名、職員数は 290 名で本所と 6 支所、1 事業所、東営農経済センター、南営農経済センター、農機センター、介護センター、各流通センター（選果場施設）を配置しています。平成 12 年 11 月にはめっけもん広場（大型農産物直売所）を開設し、既存の 6 直売所と合わせ生産・消費交流の拠点として大きな成果をあげています。 また、平成 17 年 3 月には農産物流通センター（統合選果場）、平成 21 年 9 月には東部流通センター、平成 22 年 6 月には西部流通センターをそれぞれ稼働し、新しい時代に対応する販売体制を確立し、令和 4 年度には市場流通農産物販売 90 億円、市場外流通農産物販売 30 億円、合計 120 億円の販売となりました。 JA 紀の里が取り組む「夢の花を咲かせる」第 8 次中期計画・農業振興計画（※別紙）がすべての活動の根源をとなります。情勢に的確に対応し、将来の農業振興と JA 紀の里の進むべき方向を明確にするため、経営理念でもある「果樹・やさい・花の里」「ふる里」「紀の里」の里を愛し、人々の豊かな心を育み地域の発展に貢献します。というフレーズを基本理念とし、以下の基本方針を基に部門別に重点実施方を定めています。 [基本方針]①「元気な農業」 地域農業の振興による農業者の所得増大、農業生産の拡大 ②「元気な地域社会」 地域活性化への取り組みによる JA の存在意義、知名度の向上

	③「元気な JA」 農業を核とした事業展開による組織結集力の向上と経営安定化
取組の特徴	JA 紀の里は、「地産地消」を通じて、国消国産の取り組みを推奨しています。 日本の食料自給率(カロリーベース)が38%(R3、農林水産省 HP より)となった今、地場産の野菜・果物を地元消費者の皆様にご提供できることは、非常に誇らしく、時代にあった農業を実践していると自負しています。管内農産物は温暖な気候の恩恵を受け、種々の豊富な品目が年間を通じて収穫でき、また規格外品の農産物(市場では出せない品物)は直売所へ出荷できることにより、その魅力を消費者の皆様にも最大限に知って頂いています。 主要な取り組み事例 1、夏季販売品目主力である「桃」については県下最大の産地として、「紀の里の桃・あら川の桃」の2ブランド体制を展開しており、規格外品をFM店舗にて直接販売する事により農家所得の向上と優良農地の保全に取り組んでいる。 特に輸出強化として、令和3年度にて選果機の変更を行い、輸出専用レーンの導入による出荷体制の確立を行い、輸出取扱の向上に努めている。 2、市場流通として「拠点市場戦略」を展開して、東京と大阪の2大都心への出荷を行い周年供給産地としての地位確立に努めている。 3、市場外流通としてはFMめつけもん広場の運営を基にした管内各直売所を展開し、規格外品の有利販売と規格外品の規格化に努めている。 他にも直接販売戦略として「WEB 販売」「ふるさと納税返礼品」「企業間連携」「食材供給」「提案型直接販売」の拡大に取り組んでいる 4、多様な担い手の確保と生産基盤の確立として、地域生産組織と連携したあら川の桃トレーニングファームや地域行政と協力してアグリカレッジ(苺農家新規就農支援制度)を発足し地域活性化に取り組んでいる。
今後の展開	消費地環境と産地環境の融合によるプロダクトアウトを実施して、国別・品目別による海外輸出戦略の拡大、多様な販売方式の拡充を柱にした適正価格を形成できる販売戦略を展開し、国内・外への食糧安定供給を基にした農業所得の増大と、地域振興に基づく優良農地保全・生産振興に取り組む。 和歌山県の魅力において農産物を基軸にして発信し、地域ブランドの発信、農業の魅力発信、関係人口の拡大を行います。
意見・要望	農産物の流通面(国内・国外含む)における課題対応 消費者理解の向上対策(生産資材高騰含む)「適正価格」創り 輸出における基準などの国際ルールの調整 都市農村交流拠点構想の強化施策を展開 家族農業経営支援策(果樹経営弱体化) 農業の持続性を強化できる技術革新